9月・10月の管理ポイント

平成２１年8月25日

株式会社トモグリーン・ケミカル

ホームページアドレス
http://www.tomo-green.com/

第１０１号

秋は、ベントの新根が生えかわり、芝が切り替わる時期です。夏の間に貯蔵養分を使い切ってしまった芝生に栄養を与えてやりましょう。

グリーンメカ・マリンパワー・光合成細菌

芝の呼吸過多による糖消費と土壌菌数の回復に…

残暑の厳しい9月は高温による芝の呼吸量が増加し、糖含有量は減少します。また、10月に入るとベントの生育期となり、糖の消費量も増大します。
糖が少なくなると特に根に影響を与えるので、グリーンメカでしっかり補給していきましょう。
7月、8月の高温ストレスから、少しでも早くベントを回復させるために、土壌中の硫化水素など根に直接影響を与える有害ガスを軽減させましょう。光合成細菌とマリンパワーを組み合わせることによって、嫌気性の土壌(排水の悪いどぶ臭い土壌)を改善し好気性の有用菌の定着を目指します。
使用量：グリーンメカ 5～10ml/㎡　マリンパワー 2～4ml/㎡　光合成細菌1～10ml/㎡　0.5～1.0L/㎡散布

サッチ・リムーバー

サッチ層の除去には…

９月の更新作業時に光合成細菌+サッチ・リムーバーで、グリーンのサッチ層を軽減しましょう。
他の微生物由来のサッチ分解剤とは異なり、酵素製剤なので土壌中でも安定して働きます(又農薬との混用もOKです)。分解されたサッチは、糖類やチッソ源となり、植物や他の微生物のエサとして再利用されます。
使用量：1～2ｇ/㎡　0.5L/㎡散布　使用回数：月1～2回

プライマーセレクト・アクアダクト(SWDG)

残暑に備えて均一な水分分布を…

残暑の厳しい9月は、油断するとすぐにドライスポットが出てしまいます。
プライマーセレクトを処理することによって、均一な水分分布を目指し、乾燥害からグリーンを守りましょう。
ドライスポットを出してしまったら、速効性のアクアダクトを処理して、すばやく回復させましょう。
使用量：1～2ml/㎡ 200ml～ 1L /㎡散布 散布回数：プライマーは1ヶ月～1ヶ月半に1回, アクアダクトは随時使用

スティンガーフロアブル・ガードワン水和剤・

害虫多発生時のローテション散布の一剤として…

9月、10月はスジキリヨトウ・クシナシスジキリヨトウ幼虫の発生をはじめ、タマナヤガ幼虫、ツトガ幼虫と多種の害虫が活発に活動する時期です。
殺虫剤の散布回数が多くなる時期ですから、薬剤の耐性予防としてローテーション散布を行ないましょう。
スティンガーFLは、従来の系統とは異なる新規殺虫剤で、薬剤耐性の問題もなく、食毒効果が長期間期待できるので、チョウ目害虫が多種混在するこの時期には最適です。
またガードワン水和剤も、IGR剤(脱皮促進剤なので、有機リン系やカーバメート系、合ピレ系を使用しているゴルフ場にはローテーション散布の一剤として、チョウ目害虫の幼虫が幅広く混在するこの時期に安定した効果を発揮します。
使用量：スティンガーFL　4000倍　0.2L/㎡、　ガードワン水和剤　4000倍　0.3L/㎡

カラーマーカー®・L

除草剤散布時の識別剤として…

食用色素を成分としてありますので、安心してお使いいただけます。
除草剤散布時の着色識別剤(カラーマーカー)として利用していただけます。
使用量：3000～5000倍　(倍率は芝生や主剤の色合いにより自由に加減下さい)

(従来の投げ込む粉体を液状にしましたので、希釈が自由で価格も安くなりました)

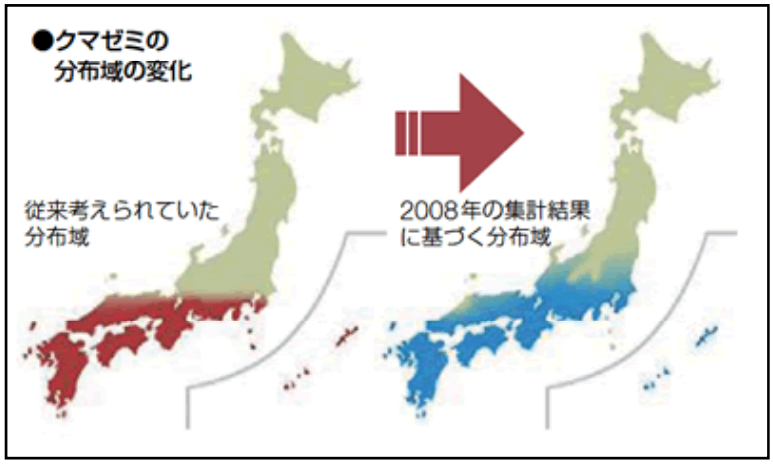
マメ知識

株式会社トモグリーン・ケミカル

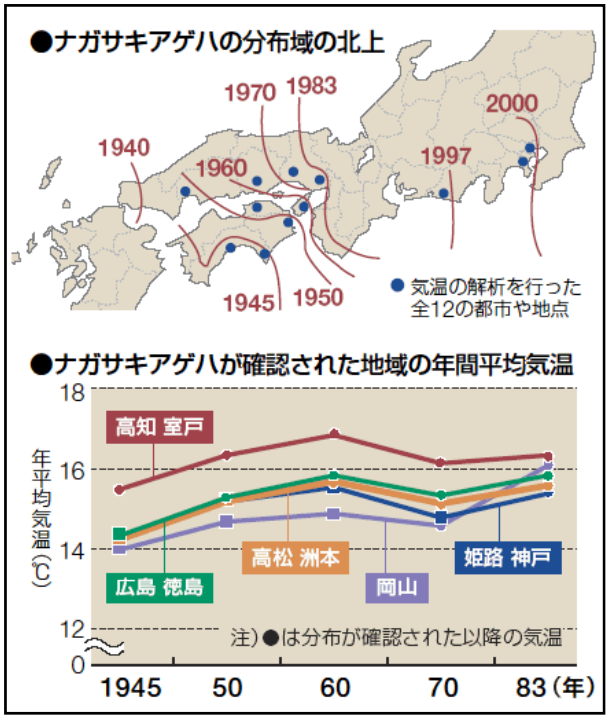
温暖化が昆虫にも影響しています

地球温暖化の問題が毎日のようにテレビや新聞報道等で伝えられる中、昆虫の世界でも様々な影響を受けています。ゴルフ場でも芝害虫が年々北上している傾向が見受けられます(特にガ類などのチョウ目害虫)。

今回は、最近㈱ウェザーニュースで調査されて話題になっているクマゼミや以前から北上が確認されているナガサキアゲハについて紹介します。



日経エコロジーレポートより紹介　出所：ウェザーニュース



日経エコロジーリポートHPより紹介

もともと九州などの温暖な地域に多いセミで、本州では珍しいセミだったが、1980年以降、大阪市などの西日本の都市部でクマゼミの割合が多くなり、1990年代から関東地方や北陸地方で分布が確認。現在は東北地方でも鳴き声が確認されています。

またウェザーニュースの調査では、十数年前には数が少なかったクマゼミの個数が、アブラゼミを上回りつつある実態が報告されています。各地のリポートから、特に九州から東海にかけて顕著に現われているそうです。

クマゼミの都市部の異常発生で問題になっているのが、ケーブル線の断線事故で、セミが産卵のために穴をあけてしまうそうです。

シーボルトが長崎で見つけたことにちなんで命名。

1940年代までは九州に多く分布し、山口県西部や愛媛県が北限。上図のように年々北上を続けています。2000年には関東まで分布エリアを拡大。

年間平均気温が15度程度になると本種が見られるようになるといわれることから、今後も北上が予想されます。